

中国人留学生の留学意識が進路決定に及ぼす影響について

－日本の私費中国人留学生に対する調査に基づく検討－

○上市秀雄¹・呉麗敏^{2#}

(¹筑波大学システム情報系・²ワンストップ・イノベーション HR)

キーワード：意思決定，進路決定，中国人留学生

The effects of Chinese foreign students' study abroad consciousness on their career decision

Hideo UEICHI¹, Limin WU^{2#}

(¹Faculty of Engineering, Information and Systems, University of Tsukuba, ²One Stop Innovation)

Key Words: Decision-making, Career decision, Chinese foreign students

目 的

現在日本は、世界のグローバル化、少子高齢化による労働力不足に直面している。よって国際競争力を高め、経済成長を実現するためには、少子高齢化対策のみならず、優秀な外国人労働者を受け入れについても考える必要がある。

2007年安倍政権は、アジア・ゲートウェイ構想の重点7分野の一つである国際人材受入・育成戦略で、高度外国人材（「国内の資本・労働とは補充関係にあり、代替することが出来ない良質な人材」であり、「我が国の産業にイノベーションをもたらすとともに、日本人との切磋琢磨を通じて専門的・技術的な労働市場の発展を促し、我が国労働市場の効率性を高めることが期待される人材」（平成21年5月29日高度人材受入推進会議報告書））の確保を「国際貢献」だけでなく「国家戦略」として位置づけている（首相官邸，2017）。

2017年5月の時点で日本にいる留学生総数は267,042人で、過去最高の留学生数となり、このうちアジアからきた留学生数は249,242人で、留学生総数の93.3%を占めている。そのアジアの留学生中でも、中国人留学生が107,260人で留学生全体の40.2%を占めている（日本学生支援機構，2018）。

よって本研究では、現在日本の留学生の多数を占める中国人留学生を対象に、日本留学後の進路意思決定について検証することにより、高度外国人材として日本で就職してもらうために必要なことについて検討する。

方 法

調査参加者 日本の大学、大学院に在籍している中国人留学生133名、及び大学以上の学歴を持っている中国人卒業生29名を対象に質問紙調査を実施し、男性47名、女性115名、合計162名の回答を得た。調査時期は、2017年11月。質問紙の配布およびWebによって測定した。

質問項目 日本留学目的 中国在住時の日本への留学目的を測定する項目。言語力5項目（例：自分の日本語力を上げたい）、国際交流4項目（外国人（日本人含む）と友達になりたい）、文化体験6項目（日本人の習慣をもっと知りたい）。

今現在の日本留学に対する評価 生活面3項目（日本での生活は便利だ）、環境面5項目（日本の自然環境は良い）、キャリアアップ5項目（自分の視野が広がった）、文化交流に対する不満4項目（日本人と距離を感じる）、日本留学に対する後悔2項目（留学せずに、そのまま中国にいればよかった）。

高度外国人材に対する意識 知識5項目（高度人材ポイント制について知っている）、期待4項目（高度人材に関する仕事に就くとやりがいを感じることができる）、努力3項目（高度外国人材になるための努力をする）。

進路決定 日本留学後の進路決を測定する3項目（日本に残って就職したい）。

各項目は5段階評定（1:あてはまらない～5:あてはまる）。

結 果

下位項目の男女差 各因子の下位項目に関して、男女差をみるためにt検定を行った。その結果、留学目的に関しては、「言語力」、「文化体験」において、女性の方が男性よりも、目的意識が高かった。しかし、留学評価、高度外国人材に対する意識については、有意差は認められなかった。

各要因の関連性の男女差 各因子の下位項目を合計し、それら変数を用いて、進路決定を従属変数として、男女別に重回帰分析を行った。その結果、日本留学目的に関しては、女性において言語力、国際交流が有意に進路決定に影響していた（Figure 1）。高度外国人材意識に関しては、女性において努力、期待が進路決定に影響していた（Figure 2）。なお日本に対する評価については有意な影響は認められなかった。

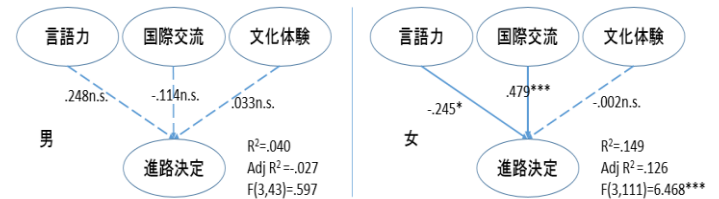


Figure 1 日本留学目的が進路決定に及ぼす影響

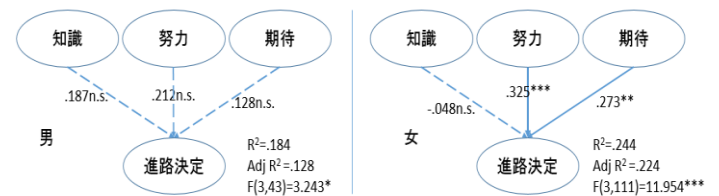


Figure 2 高度外国人材意識が進路決定に及ぼす影響

考 察

これらのことから、日本での就職促進に関しては、女性の場合、留学生と日本人、留学生間の交流機会を増やすことが重要であると考えられる。また女性は男性より留学目的が明確であり、留学に対する期待値が高いと考えられる。

よって、日本留学及び高度外国人材を促進するためには、文化体験、特に女性については日本人を含む外国人との交流機会を増やす等のような政策や制度設計等をする必要があると考えられる。

引用文献

日本学生支援機構（2018）「外国人留学生在籍状況調査」
首相官邸（2007）「アジア・ゲートウェイ戦略会議」